

平成18年度 学校評価 外部評価書

江津市立江東中学校 平成19年2月28日(水)

評価項目	領域	中間目標	短期目標	成果・取組指標	自己評価		外部評価		改善策	
					達成状況	評価	考察	評価		
教育課程・学習指導	確かな学力の育成	「わかる」「楽しい」「力のつく」授業の創造	「わかる授業」の創造による「自己肯定感」の育成と基礎・基本の確実な定着	年間総授業時数の確保状況	12月25日現在で、達成率は1年/77.8%、2年/76.7%、3年/78.4%、全学年/77.6%。	D	学期によっては行事が多く、達成できていない学期もあるようだが、年間を通して100%達成。	A	必修教科・選択教科・領域等のバランスを考えて計画的に実施する。	
				単元や単時間毎の学習のねらいや到達度の周知(教員)	教職員自己評価で肯定的評価が63.6%。	C	職員間での共通理解と共通の取組を一層進めて欲しい。学習のねらいの周知は指導上重要であると思われる。	C	今年度の反省をもとに、全体計画・年間計画・評価計画を改善する。	
				夏期学習会の実施回数(10回)	夏期学習会を11回実施。	A	今後も継続して実施して欲しい。習熟度別の課題の与え方についても検討をお願いしたい。	A	基礎学力の定着を図るため引き続き実施する。	
		「確かな学力」を育む指導方法や指導形態等の工夫・改善	少人数授業の充実等きめ細かな学習指導の実施と教育課程の編成	少人数授業・習熟度に応じた学習等個に応じた学習の実施状況(教員)	肯定的評価が72.7%。	C	学校訪問の際の授業視察により、効果的に実施されている様子であった。今後も継続実施して欲しい。	B	2、3年生を中心に効果的な実施方法を検討する。	
				保護者評価の「学力向上」の項目(保護者)	保護者アンケートの肯定的評価44.8%。	C	学校から保護者への継続的な情報の発信が今後とも必要。学力向上のための指導方法の工夫が必要。	C	家庭との連携を図るとともに学力向上のための指導方法を工夫する。	
				研究授業・授業公開の状況(全員が公開)	1月19日現在で、4名授業公開を実施。	C	指導案の作成にこだわらず、指導のポイント(略案)だけでよいから全員が参加しやすく、お互いが見合うような体制にして、全員公開にしたらよい。	C	参観授業も含め、年間計画を立て実施し、できるだけ全教職員が参観できるようにする。	
				望ましい学習態度と学習習慣の確立	始業時着席・忘れ物・私語の状況(教員)	教職員自己評価で肯定的評価が63.6%。	D	音楽を鳴らして終了後2分後に始業するという成功事例もあったので、参考にして欲しい。生徒の心の準備のためにも合図は必要。	C	チャイムを復活し、時間とともに行動できるように、教職員が率先して動く。
		生徒評価の「家庭学習習慣」の項目(生徒)	生徒アンケートで肯定的評価36.9%。		D	やっていないと次の時間に困るという課題を与え、短時間でもやってくるという習慣づけを図ることが大切である。家庭教育における習慣づけも期待したい。	D	学年単位で週末に課題を出すなどして、家庭で学習する時間を必ず設けるように習慣づける。		
		ふるさと教育	ふるさと教育	ふるさとでの「ひと・もの・こと」を生かした教育活動の充実	KSTの効果的な実施の状況(教員)	教職員自己評価で肯定的評価が72.7%。	C	波積の田植えややしや銭太鼓等地域の人材を活用した取組が継続的にされている。	B	表現KSTにおける地域の方のご協力を今後も仰ぎたい。現在取り組んでいるもの以外にも、ご協力していただけることがあれば、積極的に働きかける。
					保護者評価の「特色ある教育活動」の項目(保護者)	保護者アンケートの肯定的評価37.3%。	D	「特色」というものの定義についての説明やPRをもっとしていくことが必要。今後、子どもの変容を見て欲しい。各地域の特色を取り上げ取り組む方法で評価も上がると思う。	C	

評価項目	領域	中間目標	短期目標	成果・取組指標	自己評価		外部評価		改善策
					達成状況	評価	考察	評価	
生活指導・進路指導	豊かな人間性・社会性	基本的な生活習慣の定着と生徒の「自己肯定感」を育む生徒指導の充実	全校態勢での生徒指導の充実	生徒指導の全教職員による推進態勢(教員)	教職員自己評価で肯定的評価が81, 8%。	A	教職員間のチームワークを大切に取り組んで欲しい。	A	生徒会活動による生徒の主体的な点検活動を推進する。 家庭との連携を密にして、心を育てる指導を推進する。
				挨拶・交通マナー・服装・礼儀の状況(教員)	教職員自己評価で肯定的評価が54, 5%。	C	組織的・継続的な指導が必要。自転車のマナー、服装については改善が必要。特に自転車マナーは模範校に恥じない登下校をするよう指導が必要である。	C	
			一人一人の生徒の良さを意欲を引き出す個に応じた指導の充実	欠席者・遅刻者の1校時開始までの把握	毎朝、職員が生徒玄関で確認し、職員朝礼で出席者、遅刻者、欠席者を報告。	A	継続的に取り組んで欲しい。遅刻常習者は家庭との連絡を密にして取り組んで欲しい。	A	全職員での情報収集、情報共有の意識を持って指導に当たる。
				学期に1回の教育相談週間の実施状況	2学期・3学期(2回)に教育相談期間を設け、実施。	B	毎学期実施して欲しい。	B	毎学期の教育相談を計画的に実施する。
			生徒の「自己肯定感」を育む生徒会活動等諸活動の充実	生徒の自主的な生徒集会の場を10回以上	2学期末までで、人権集会や生徒総会、全校集会等を含め10回開催。	A	さりげなく褒めてやる、任せる、達成感をしっかり持たせる等の取組をやって欲しい。体育祭、文化祭などの学校行事への参加が主体的に行われて学校は楽しいとの肯定的評価がされている。これが、他の学校生活(特に学習面)に効果をあげていくように願う。	A	学級図書を充実するなど、読書に親しむ環境を整える。
				生徒評価の「積極的な学校行事への参加」の項目(生徒)	生徒アンケートで肯定的評価90, 5%。	A			
				体育祭アンケートの項目(地域・保護者)	地域・保護者アンケートで肯定的評価が73, 3%。	B			
				朝読書の実施状況(生徒)	生徒アンケートで肯定的評価が69, 5%。	B			
		「いのち」と「平和」を大切にする人権・同和教育・道徳教育の充実	お互いの人権を大切にする態度を育成する指導の充実	人権集会の実施状況(教員)	教職員自己評価で肯定的評価が90, 9%。	A	保護者への一層の啓発や参加への呼びかけが必要。効果の把握も必要。人権・同和教育が教育活動の基盤となっているので、友だちを大切にする気持ちが育っていると思うが、小さいじめなど見逃さないよう気を配って欲しい。	A	いのちいきいき通信等で保護者や地域への啓発を続けたい。PTAとの連携を行って、動員を図りたい。
				保護者評価の「思いやりの言動」の項目(保護者)	保護者アンケートで肯定的評価が43, 3%。	C		C	
			同和教育における校内推進体制の充実	同和教育の授業公開の実施状況(教員)	同和教育に視点を当てた授業を3回実施。(2学期末時点)	A	研修会、授業公開ともよく実施されている。	A	研究部のわかる授業と連携しながら、今後も継続して実施したい。
		同和教育の研修の実施状況(教員)		研修会を3回実施。(2学期末時点)	A				
		キャリア教育の充実	望ましい職業観・勤労観の確立	職場体験学習の訪問先数(10箇所以上)	1月末で職場体験学習の訪問先を17箇所確保。	A	個々のニーズに応じて職場の開拓ができており、今後も引き続き行って欲しい。	A	保護者による職業講話を実施するなど、保護者が生徒に職業への「思い」を伝えることができる場面を設定する。
				家庭教育アンケート調査の項目(保護者)	保護者調査(家庭教育力調査)で肯定的評価が66%。	C	家庭の話し合いをしっかりと欲しい。学校から保護者への啓発もしっかりして欲しい。子どもがめざす将来像をイメージできるよう指導が必要。	B	

評価項目	領域	中間目標	短期目標	成果・取組指標	自己評価		外部評価		改善策			
					達成状況	評価	考察	評価				
特別支援教育	体制の整備	個別のニーズに対応した教育の推進体制の構築	校内における特別支援教育の体制の整備	校内委員会の実施回数(年2回以上)	1月末で特別支援教育の校内委員会を1回実施。	C	教職員の子どもの方見方についての意識の向上が課題。一層の研修の機会を持って欲しい。実態をしっかりとつかんで指導して欲しい。	C	特別支援教育についての理解を深め、支援を要する生徒への具体的な手立てを考えていきたい。			
				特別支援教育の研修回数(年2回以上)	1月末で特別支援教育の校内研修を1回実施。	C						
施設設備・安全管理・保健管理	教育環境の整備・安全対応能力の向上	生徒の健康や安全に配慮した教育環境・施設設備の工夫・改善	校内の環境整備の推進	施設・設備の修理・修繕の状況(教員)	教職員評価で肯定的評価が81.8%。	A	危険箇所の早期発見、修理が一番大切。	A	生徒の安全確保につながる施設設備の保守点検、営繕等に力を入れるとともに、安全な学校生活を確保するための施設設備の設置や修繕等を働きかける。情報教育の推進や校務の情報化を促進するため、更新されたコンピューター等を有効活用する。			
				学校備品の整理・有効活用実施状況(教員)	教職員評価で肯定的評価が90.9%。	A						
				清掃活動の実施状況(教員)	教職員評価で肯定的評価が54.5%。時間の問題も含め、要検討。	D				清掃の時間を検討する等して欲しい。10分間では短いような気がする。清掃指導は心を育てる教育ととらえ、心をこめて学校美化に努めるよう指導をお願いしたい。	B	日常的な校舎周辺の環境美化活動や朝の定期巡回等により、恒常的に整った学校内外環境を保持する。清掃の仕方、役割分担等の学級指導に一層力を入れるとともに、環境整備部(生徒会)の活動を活発にする。清掃時間は引き続き検討する。
				清掃用具の年点検回数	1月末で清掃用具の点検回数が3回。	B						
			危機管理体制の整備	個人情報管理の実施状況(教職員)	教職員評価で肯定的評価が90.9%。	A	今後とも管理を徹底して欲しい。	A	校内における生徒名簿や成績物等の机上管理を徹底し、個人情報の収集や収集した個人情報の利用を適正に行う。			
				不審者侵入に対する訓練の実施実施回数(年1回以上)	1月末で不審者侵入に対する訓練を未実施。	D	外部の目が行き届きにくいところがあるので、実施して欲しい。	D	各学期1回を目途に危機管理に関する訓練や研修の場を確保する。避難訓練については、授業外の場を想定しての実施を試みる。安全点検で見つかった危険箇所については、放置せず、迅速な対応を心がける。引き続き、安全点検を毎月定期的実施し、生徒に対する安全安心な学校生活を可能な限り保証する。			
				災害・地震等の避難訓練の実施実施回数(年2回以上)	1月末で火災・地震等の避難訓練を2回実施。	A	パターンを変えるなど様々な場を設定して、継続実施して欲しい。	A				
				安全点検の未修理箇所3箇所以内	1月末で市教委届け出分を除く未修理箇所が5箇所。	B						
			保健衛生環境の推進	健康診断の実施(年5回以上)	1月末で健康診断を5回実施。	A	今後とも継続実施して欲しい。保健だよりの発行がよくなされている。治療状況の把握・指導など個別の指導も必要と思われる。	A		一人一人の状況に応じた、個別指導をより一層充実させる。季節や流行などに応じ、適切な情報発信を心がける。		
				保健だよりの年10回以上の発行	1月末で学校保健だよりを11回発行。	A						

評価項目	領域	中間目標	短期目標	成果・取組指標	自己評価		外部評価		改善策
					達成状況	評価	考察	評価	
組織運営・研修・保護者や地域との連携	信頼される開かれた学校づくり	地域に開かれた風通しのよい学校づくり	学校評価と情報公開の推進	外部評価委員会の年3回以上の開催	1月末で外部評価委員会を3回実施。	A	熱心な取組であり、公開がきちんとなされている。	A	次年度も引き続き、学校評価の実施及び外部評価の実施、評価結果の公表を行い、学校情報の適切な提供・発信を心がける。また、定期的な学年だより等の発行により学校の教育活動情報をタイムリーに提供する。
				学年・学級だよりを月1回以上を発行	各学年とも学年だよりを月1回以上発行。	A			
		保護者・地域社会との有機的な連携の強化	保護者評価の「家庭との連携を積極的に…」の項目(保護者)	保護者評価で肯定的評価が40.4%。	C	今後も啓発をしっかりと欲しい。学校に地域のだれもが入り出す機会を設けて欲しい。	C	家庭訪問、期末懇談会、連絡帳等により、学級担任と家庭の密な連絡体制の確立に心がける。また、地域の方々が訪れやすい雰囲気づくりに取り組む。	
			活動への延べ参加人数が年150人以上	単位PTAとしての活動(行事等)への延べ参加人数が約240名	A	とてもよく取り組んでいる。地域・家庭の教育力を取り入れた活動を実践して欲しい。体育祭、文化祭などの行事は保護者だけでなく地域へも案内をして欲しい。吹奏楽部が地域行事へ参加していただき、交流ができ、親しみを感じるようになった。	A	親子奉仕活動、リサイクル活動、文化祭バザー等のPTAによる学校支援活動に積極的な働きかけを行うとともに、挨拶運動等の常時活動にも参加を呼びかける。引き続き、学力に不安のある生徒の学力向上を図るための学習支援ボランティアの活動を継続実施する予定。	
			学習支援ボラ招へい人数延べ年30人以上	1月末で学習支援ボラ招へい数が38名。	A				
		組織マネジメントによる学校運営体制の充実	学校運営組織の活性化と教職員の資質向上	各種企画会議の10回以上の開催	1月末で各種会議の開催回数が11回。	A	よく実施されている。	A	
	服務規律を含む校内研修を3回以上実施			1月末で服務規律(1回)を含む校内研修を2回実施。	B	学期に1回は実施して欲しい。親が子どもの学習状況を知りたがっているので、参観の機会を多くして欲しい。	B		
	保護者評価の「教員は熱意を持って教育にあたっている」の項目(保護者)			保護者評価で55.2%。	B	特になし	B		
	学校間連携	校区内の9年間を見通した教育の推進	小学校との有機的な連携	小中合同の研修会の実施回数(年1回以上)	1月末で合同研修会(人権同和教育研修)を1回実施。	B	1回では連携がとれない。学習面での連携も含め、複数回の研修の機会が必要。	C	小中合同の研修会や協議会(全教職員対象)の実施回数について検討するとともに、授業改善や学力向上をテーマとした管理職や主任レベルの協議の場を定期的に設ける。
				学校説明会の実施状況(保護者)	保護者評価で100%。	A	第4回外部評価委員会に間に合わず考察なし。	—	